

## (2) 久慈川にまつわる信仰と祭り

久慈川は人々の生活に恵みをもたらすと同時に「恐ろしい川」でもあった。人知の及ばぬ自然の力としての水への恐れは、神への恵みと安全への祈願となった。また、川の水が少なくなった時には、雨乞いや禊みそぎをして神に祈った。久慈川沿岸の農村地帯では、豊穡を祈ると同時に土地が安らかであり、災厄が訪れないようにという人々の素朴な祈りがこめられた祭礼が今でも継承されている。

### 1) 八溝山と信仰

八溝山の山頂には、八溝嶺神社が建立されている。茨城，栃木，福島三県にまたがる久慈川の水源の八溝山は水を恵む霊山として信仰され、江戸時代には山麓の村々の総鎮守的存在であったという。社伝によると、日本武尊が東国平定の際に神を祭ったのが始まりとされ、歴史的にも10世紀の「延喜式神名帳」にも名前が載っている古い式内社である。

八溝嶺神社の一の鳥居が山麓の棚倉町大岩平おおいわだいら集落にある。ここには久慈川の名をとった久慈川上神社があり、八溝山入山への里の入り口となっている。この神社は戦国時代佐竹氏による建立とも言われており、以来400年間農業の神として人々の信仰を集めている。

### 2) 水神さま

久慈川流域では、水害から集落を守ってくれる神様として、また地域に恵みをもたらす神様として水神さま信仰が広範に見られ、これは今も続いているものが多い。那珂町額田北郷、常陸太田市上河合町舟渡、常陸大宮市上大賀（旧大宮町久慈岡）、常陸大宮市舟生（旧山方町舟生）など各地にあり、それぞれの集落では持ち回りで当番を決めて小規模な祭礼をおこなっている。



舟生の水神さま(常陸大宮市, 旧山方町)

### 3) 可恐碑おそるべしのひ

大子町の久野瀬の諏訪神社に、「可恐おそるべし」と彫りこまれた高さ60センチほどの碑文があり、「明治二十三年八月七日 久慈川洪水ここを浸す ただし平水より増すこと二十尺」と刻まれている。二十尺は約6mであり、未曾有の大洪水であったことがわかる。袋田駅踏み切り近くの旧道の岩上にも同名の碑文がある。



可恐碑おそるべしのひ(大子町)

4) <sup>かなき</sup>金砂神社の大祭礼

常陸太田市上宮河内町にある西金砂神社と、常陸太田市天下野町にある東金砂神社の大祭礼が平成15年3月にとり行われた。これは72年に1度行われるという珍しい祭りである。両神社から日立市の水木浜まで約50kmの道のりを6泊7日かけて、神輿の渡御行列が練り歩き、各地で神事、田楽などを奉納する。祭りの行列は水木浜で海水を汲んで神体を清める。

伝説によると、西金砂神社の神は女神で、東金砂神社の神に嫁いで夫婦になったとされ、この二神が協力して国を治め、天下太平、五穀豊穰、万民豊楽を祈願するとされている。西金砂神社の田楽は「四方固め」「獅子舞」「種まき」「一本高足」の4段からなり、悪霊を鎮め、神々の恩恵を祈願し、豊穰を祈る。



四方固め



獅子舞



種まき



一本高足

図 2-4 金砂神社の大祭礼の様子(昭和6年)

(金砂郷村史編さん委員会、「西金砂の祭礼と田楽-古代から現代まで-」より)

図 2-4 は昭和6年に行われた西金砂神社の田楽の写真である。左上は猿田彦命の面をつけておこなう「四方固め」、右上は田畑を荒らす獅子(猪)を懲らしめる「獅子舞い」である。左下は「種子まき」で、この段は田起し、種子まき、稲こきの3場面からなっている。右下はたけみかつちのみこと武甕槌命を表わし、豊穰を祝して踊る「一本高足」である。

## 5) 近津神社の「お田植え祭り」

久慈川の上流域の棚倉や大子には都都古分神社<sup>つづみわけ</sup>が3社ある。棚倉町馬場にある上の宮神社、棚倉町八槻の八槻都都古分神社、大子町下野宮にあり近津神社と呼ばれている下の宮神社である。都都古分神社も10世紀の「延喜式神名帳」に記録されており、古くより八溝山信仰と結びついているとされている。うち八槻（毎年旧正月六日）と下野宮（夏至の日）の二社では、豊穰を祈願する「お田植え祭り」がおこなわれる。下野宮の祭礼では、神事のあと、苗取り歌が歌われ、早乙女がこれに合わせて神田に入って田植えをおこなう。参詣人は神社の苗をもらい、境内の寒竹を持ち帰る。苗は豊作を祈って自分の田に植え、寒竹は神棚にそなえる。



下野宮近津神社の「お田植え祭り」(大子町)

(写真提供:大子町)

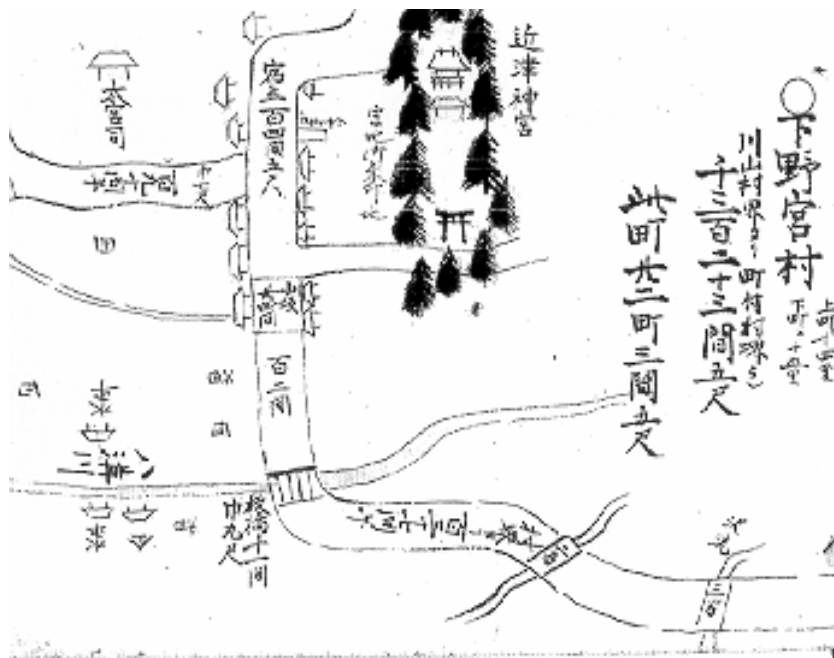


図 2-5 江戸時代の古地図に記された近津神社

(加藤寛斎,「常陸国北郡里程間数の記」より)